

## ハウスきゅうりの遅出し作型における不耕起栽培法

ハウスきゅうりの早出し・遅出し連続栽培において、前作の早出し栽培終了後、茎葉のみを片づけ、不耕起でセル成型苗を早期に直接定植することにより、慣行栽培を上回る収量を確保できる。

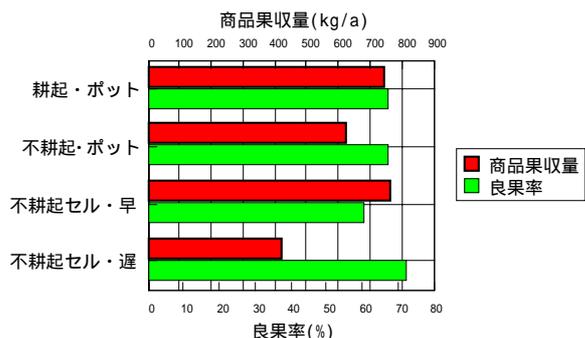


図1 ハウス遅出し作型の収量・品質(平成8年)

ポット苗では、不耕起栽培は耕起栽培より収量が低下する。慣行栽培とは種期を揃えたセル苗の不耕起定植(不耕起セル・早区)は、慣行技術(耕起・ポット)より、収量向上が図られる。

ポット苗では、不耕起栽培は耕起栽培より初期収量が劣る。慣行栽培とは種期を揃えたセル苗の不耕起定植(不耕起セル・早区)は、慣行技術(耕起・ポット)より初期収量が向上する。

なお、慣行栽培と定植期を揃えた不耕起定植(不耕起セル・遅区)では、初期収量が伸びず収量増加は望めない。

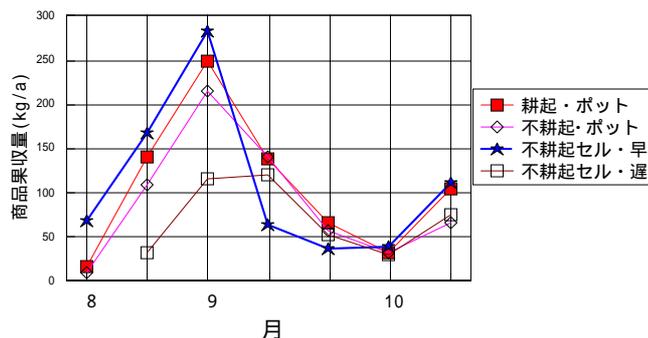
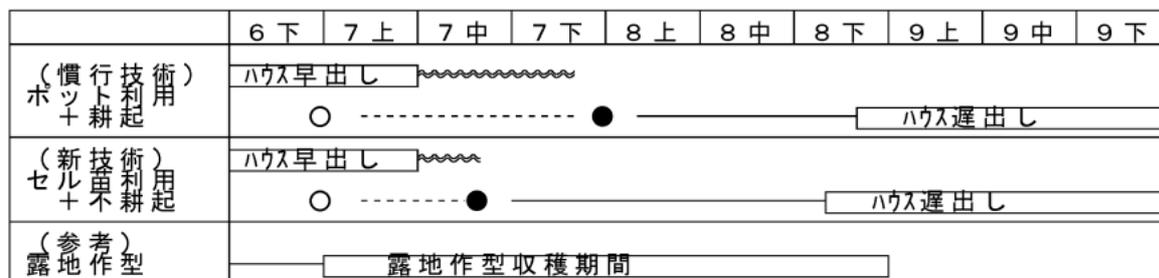


図2 ハウス遅出し作型の時期別収量(平成8年)

図3 不耕起栽培法の概念図



○ : 播種    - - - - : 育苗期間    ● : 定植    □ : 収穫期間    ~~~~~ : 切替作業期間